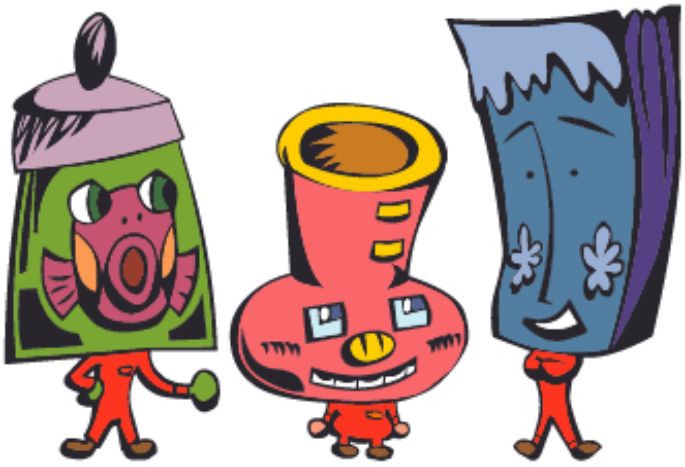
三訂版

第 26 回全国科学教育ボランティア研究大会 in 京都

Scientific Education Volunteer Research Conference

『伝える楽しさが未来をつくる！ 心震えるサイエンス』

SEVRC 2026



(C)YAKATA chiaki 2001

日時:2026 年 11 月 28 日(土)～29 日(日)

会場:**京都市青少年科学センター**

〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町 13 番地

目　次

・Zoom 参加について　2

・プログラム　3

・京都市青少年科学センターへのアクセス　5

・京都市青少年科学センター全体図，科学センター1 階見取図　6

・シンポジウム　7

・私の科ボ活　11

・学生セッション　15

・一般参加者による口頭発表　17

・招待講演　21

・フリーボード　22

・フリーボード　22

＊＊＊　お願い　＊＊＊

大会参加後は，ぜひアンケートにご協力ください。

アンケートへの回答は，下記の QR コードまたは URL からご入力ください。

https://docs.google.com/forms/d/1kZurtn7EdNZEy--ZdSz3mQ6LnZGoxHfXtxhE2lCjnDQ/edit

Zoom 参加について

今回も，対面とオンライン(Zoom ライブ配信)によるハイフレックス開催を継続させていただきます。
オンライン(Zoom)参加の場合，ご自身のパソコンやタブレット，スマートフォンなどに Zoom のアプリがインストールされている方は，後日メールで送付される＜招待 URL＞にアクセスし，ご参加ください。
なお，Zoom がインストールされていない，もしくは Zoom の使い方がわからないという方は，下記までご連絡ください。

sevrchp@gmail.com

【Zoom 参加後のお約束】

・ Zoom に参加されたら，お名前を「氏名(所属または都道府県名)」に変更してください。
（画面下の「参加者」⇒ 右欄の自分の名前の三点リーダー[･･･] ⇒ 「名前を変更する」）

・ マイク(オーディオ)は OFF(ミュート)，ビデオは ON，スピーカービューでの設定をお願いします。
なお，通信環境等の理由で不都合のある場合はビデオ OFF でも構いませんが，挙手による質問やブレイクアウトセッション等で，司会からビデオを ON にしてくださいとの指示があった時には，可能な範囲で対応してください。

・ 録音，録画は禁止です。

・ 質問がある場合は，「リアクション」から「挙手」を選んで，司会者の許可を求めてください。
（質問が終わったら，「リアクション」から「手をおろす」を選んでください。）

・ 司会者から，「ミュートの解除依頼」が届いたら，「ミュートを解除」の上，ビデオとマイクを ON にし，所属(または都道府県名)と名前を述べてから質問してください。

・ 質問が終わりましたら，マイクを OFF にして，手をおろしてください。
（忘れている場合，大会スタッフで OFF にいたします。）

・ チャット欄にて質問を入力いただくことも可能です。その場合，司会者が他の質問状況次第で質問内容を代読しますが，挙手の質問者が優先されますので，読み上げられない場合もあります。
（画面下の「チャット」を開いて質問内容を入力してください。「宛先」は全員を選んでください。）



(C)YAKATA chiaki 2001

プ ロ グ ラ ム

11月28日（土）	14:00～	受付開始（ポスターセッションのポスター貼付可能:学習棟１階フロア）
	15:00～15:10	開 会 式（映写講義室）
	15:10～17:30	シンポジウム（映写講義室） ＊15:10～15:55 は, 一般参加者あり
	18:00～19:30	情報交換会（アーバンホテル京都）
11月29日（日）	9:00～10:45	私の科ボ活(ポスター・展示発表)（映写講義室） ＊発表番号奇数は 9:00～9:50, 偶数は 9:55～10:45
	11:00～12:30	【セッション 1】学生セッション（映写講義室）
	12:30～13:30	昼 休 憩
	13:30～15:00	【セッション 2】一般参加者による口頭発表（映写講義室）
	15:15～16:30	【セッション 3】招待講演（映写講義室） ＊15:15～15:45 は, 一般参加者あり
	16:40～17:00	閉 会 式（映写講義室）

◎11 月 29 日(日), 学習棟１階フロアにおいて協賛企業出展(物品販売あり)を行います。
なお, 28 日(土)は行いません。

Memo

あると便利
実験観察撮影の決定版！

トルシー Toru See

理科実験観察撮影装置 ToruSee
E31-7375 ¥21,800（¥23,980）
E31-7375-01（雲台付）¥26,600（¥29,260）

お手持ちの端末(Windows、Chromebook)のUSBポートに差し込み、端末内のカメラアプリを利用してすぐに使えるUSBカメラです。接眼ダイレクトアダプタ採用により、顕微鏡の接眼レンズに直接差し込み、撮影できます。カメラには、1/4インチネジを搭載、三脚などで固定するとさらに便利です。

［セット内容］
●実験観察用USBカメラ（200万画素/USB2.0）
●接眼ダイレクトアダプタ
●USBケーブル（1.5m）
●カメラ用雲台（※**E31-7375-01**のみ）


▲E31-7375-01


※E31-7375を使った実験例

顕微鏡の接眼レンズにセットするだけ！
手軽に観察像を撮影できます。



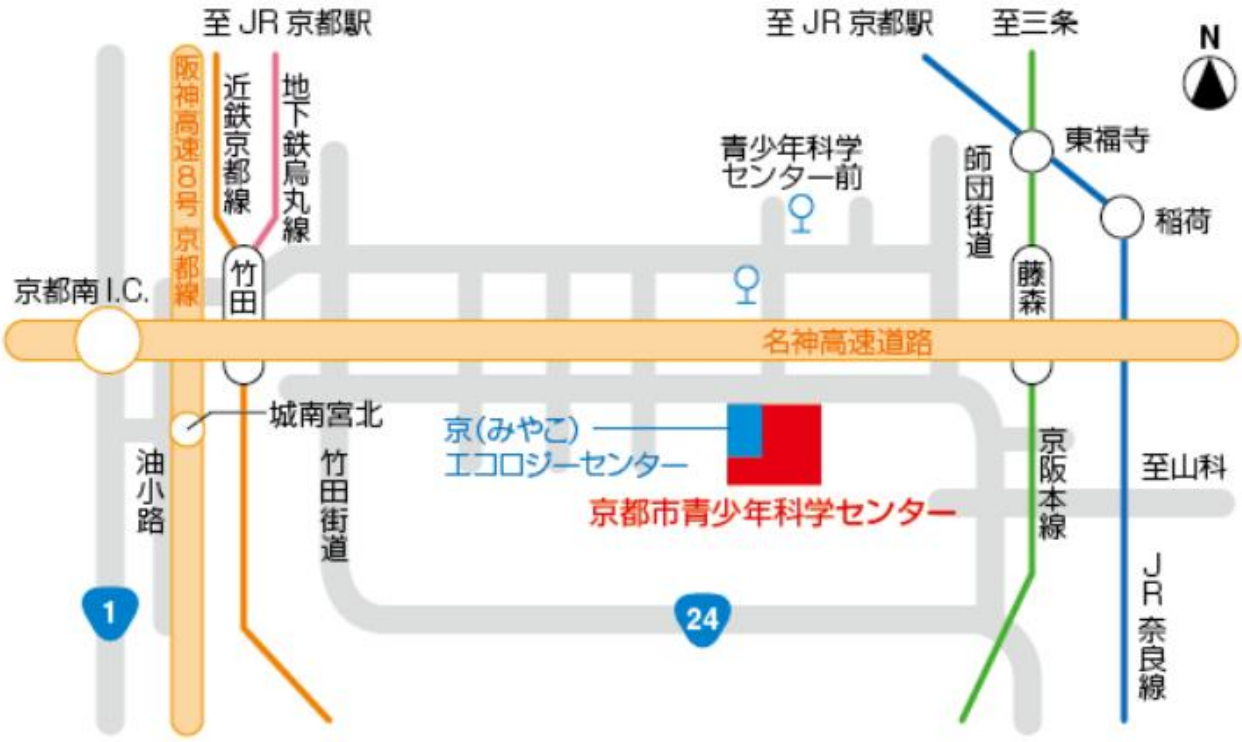
NaRiKa SCIENCE IS JUST THERE

株式会社ナリカ https://narika.jp/

□本　　社 〒101-0021 東京都千代田区外神田 5-3-10 TEL:03-3833-0741 FAX:03-3836-1725
□仙台営業所 〒981-0932 仙台市青葉区木町 6-14 サン・レオ102 TEL:022-272-8188 FAX:050-3156-7469
□大阪営業所 〒531-0076 大阪市北区大淀中 1-4-16 永田中津ビル5階 TEL:06-6451-3986 FAX:06-6451-3925
□福岡営業所 〒812-0014 福岡市博多区比恵町 2-7 博多東エースビル7階 TEL:092-432-6888 FAX:092-432-7388

京都市青少年科学センターへのアクセス

京都市青少年科学センターのホームページより転載



・京阪電車　藤森（ふじのもり）駅下車, 西へ約 400 メートル

※京阪電車「藤森駅」は準急または普通しか止まりませんので, ご注意ください。

・地下鉄・近鉄電車　竹田駅下車, 東へ約 1km

・市バス　青少年科学センター前下車徒歩 3 分

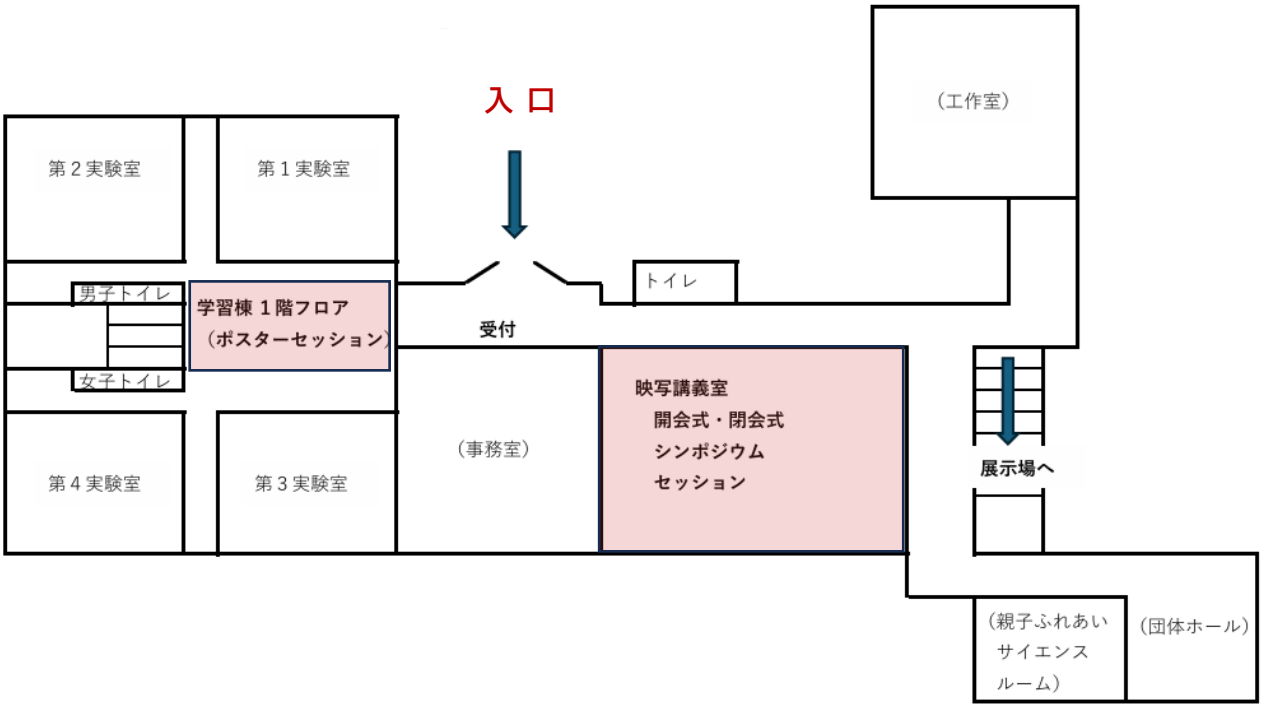
京都駅発 南⑤ → 稲荷大社・竹田駅東口ゆき
竹田駅東口発 南⑥ → JR 藤森駅 藤森神社ゆき
竹田駅東口発 南⑧ → 御香宮 桃陵団地 中書島・横大路車庫ゆき

京都市青少年科学センター全体図



＊注意:大会参加者は２階の一般来場者入口ではなく,１階事務室前から入ってください。

科学センター1 階見取図



シンポジウム

『伝える楽しさが未来をつくる！ 心震えるサイエンス』

科学の楽しさや感動は，人から人へ伝えられることで広がり，新たな学びや挑戦を生み出します。本シンポジウムでは，サイエンスショーや科学イベントの実践，科学の鉄人 NEXT の取組，さらには専業サイエンスコミュニケーターとして活動する実践者の経験を通して，「伝えること」の魅力と可能性を探ります。人々の心を震わせる科学体験は，どのように生み出されるのでしょうか。そして，その感動を未来へつなげるために私たちに何ができるのでしょうか。世代や立場を超えて活動する仲間とともに，科学を伝える楽しさと，その先に広がる未来について考えます。

■講演時間と講演者

1. 15:10～15:30 東 俊介（京都市青少年科学センター） ＊一般公開

2. 15:35～15:55 東郷 伸也，橋本 年弘（京都市青少年科学センター） ＊一般公開

＊15:55～16:00 休憩《一般来場者退室》

3. 16:00～16:15 東 俊介，橋本 年弘，東郷 伸也（京都市青少年科学センター）

4. 16:17～16:42 小幡 哲士(おばた D)
（科学の鉄人 NEXT 実行委員会 共同代表，NHK for School 理科ディレクター

5. 16:44～17:09 くも M（Science Kido サイエンスコミュニケーター）

6. 17:11～17:30 パネルディスカッション

■司会:岡田 工（東海大学）

■講演要旨

1. 東 俊介 【空気砲でつくる「参加したくなる科学」】

京都市青少年科学センターでは，科学の不思議さや楽しさを多くの来館者に伝えるため，さまざまなサイエンスショーを実施している。本講演では，空気砲を題材としたサイエンスショー「空気でポン！」を体験していただいた後，そのショーをどのような考え方で組み立てているのかについて紹介する。

私はサイエンスショーを「見るもの」ではなく，「参加したくなるもの」として設計することを大切にしている。参加者が実験結果を予想したり，会場全体で考えたりしながら主体的に関わることで，科学への興味や関心をより高めることができると考えている。そのため，実験教材の選択や演出だけでなく，問いかけの工夫や参加者とのコミュニケーションなどにも力を入れている。

科学センターで実際に行っているサイエンスショーの考え方や工夫を紹介しながら，「参加したくなる科学」をどのようにつくり出しているのかをお伝えしたい。皆様がそれぞれの活動現場で活用できるヒントを持ち帰っていただければ幸いである。



2 東郷 伸也，橋本 年弘　【サイエンスライブ「モーレツ大気圧教室」と青少年科学センター】



今回見ていただく「モーレツ！大気圧教室」は，科学センター学習の「教材観を熟成」する中から生まれました。“マグデブルク半球”や“さかさコップ”などはよく知られた実験ですが，知っているつもり･･･になっていることがあるかもしれません。

「マグデブルク半球の空気のようすが気になる！」

「さかさコップの中に残っている空気が気になる！」

そんなふうに感じてもらえるサイエンスショーを目指しています。

3. 東 俊介，橋本 年弘，東郷 伸也　【京都市青少年科学センターとサイエンスショー】



京都市青少年科学センターは京都市教育委員会が運営する施設です。57 年前の開館当初より「科学者精神の育成」を目指して，次の 3 つを運営の柱として取り組んでいます。

【 ① 科学センター学習 ② 教員研修，学校支援 ③ 市民科学事業 】

中でも科学センター学習は当センターの当館の特色の一つで，毎年 2 万数千人の児童生徒が実験室学習や展示場学習，プラネタリウム学習などに取り組んでいます。学習に用いる教材はすべて所員が自作したものですが，ここに大きな意味があります。自作するには教材に対する深い理解がなければならず，それが「教材観の熟成」につながっています。今回見ていただく 2 つの「サイエンスライブ」も，そんな中から生まれました。よく知られた実験ですが，その中にある「教材観の熟成」を見ていただき，さまざまなアドバイスをいただければ幸いです。

4. 小幡 哲士(おばた D)　【科学の鉄人 NEXT―未来へつなぐ科学の循環と共創を目指して】

「科学の鉄人」とは，サイエンスプレゼンテーションの最高到達点を競うコンテスト。4 組の出場者が 20 分間のサイエンスショーを実演し，その場の観客投票により「科学の鉄人」を決める容赦ない実力主義の舞台です。2002 年から 2017 年にかけて東京や沖縄で開催され，全国の科学教育者が学び合う場でしたが，運営資金等の課題から途絶えていました。

その理念を受け継ぎ，持続的な形での復活を目指して，ガリレオ工房や本会(全国科学教育ボランティア研究大会)の支援を受けて，2026 年 3 月「科学の鉄人 NEXT」を開催，27 年 3 月 13 日に第 2 回大会を予定しています。

本発表では，復活大会の成果や課題，第 2 回大会に向けた取り組みを紹介しながら，世代や地域を越えた学び合いや実践知の継承を通じて，科学教育ボランティアの未来を皆さんとともに考えます。





5. くも M　【サイエンスコミュニケーターとして生きる道～いかにしてここまで生き残ってきたのか～】



奈良県生駒市を中心に，実験教室やサイエンスショー，科学イベントを数多く開催してきました。また，研究者を志す学生に向けたインタビューを 50 人以上に行い YouTube で配信するほか，研究室のプロモーションビデオの制作，学会イベントの映像編集，万博展示のプロデュースなど，多角的に事業を展開しています。

科学館や教育機関に所属されたり，ボランティアとして活動されたりする方が多い中，私は専業のサイエンスコミュニケーターとして 7 年間歩んでまいりました。本講演では，これまでの実績を振り返りつつ，科学コミュニケーションを持続可能な「仕事」として成り立たせ，生き残っていくための実践的アプローチをお伝えします。

Memo



(C)YAKATA chiaki 2001

私の科ボ活

『私の科ボ活(ポスター・展示発表)』

このセッションでは，発表者の活動をポスターや展示により発表していただきます。
参加者相互の交流により，全体としてのボランティア活動の質の向上や活性化を目的としています。

■発表者（奇数は 9:00～9:50，偶数は 9:55～10:45 が発表時間の目安です。）

1. 滝川 洋二（NPO 法人ガリレオ工房）
2. 栗山 恭直，安達 茜（山形大学），土井 美香子（NPO 法人ガリレオ工房）
3. 八尾 隆太，久能 大河，小町 奏翔（岡山理科大学科学ボランティアセンタースタッフ会）
4. 熊谷 宜久（神戸大学）
5. 松村 浩一（NPO 法人ガリレオ工房）
6. 佐藤 豊，山口 哲也，加藤 唯花，荻窪 ゆきの，鈴木 花葵，田之上 那奈
（名古屋経済大学市邨高等学校）
7. 高野 裕恵（ラボラトリー・ワーク・グループ大阪）
8. 太田 好信，藤田 龍（東海大学サイエンスコミュニケーター）
9. 二階堂 恵理，浦本 康衣（理科実験おたすけ隊）
10. 伊藤 広司，井口 和明（ライフサイエンス教育研究会）

■発表概要

1. 滝川 洋二　　【イベント用手元実験・手作りミニ空気砲・風力発電・光発電・たたいて発電・温度差発電他】

科学ボランティアが行う実験教室やサイエンスショーでの手元実験は，イベントの時間にもよりますが，意外性があったり楽しい，安価，手軽で参加者が確実に行える，準備に余り手間取らない，持ち帰っても安全などが必要になることが多いのが実情です。最近のイベントで手元実験として使った内容を紹介します。



2. 栗山 恭直，安達 茜，土井 美香子　　【理科読マイスター養成講座】

山形大学では，JST の「地域の科学舎ネットワーク事業」に採択され，サイエンスボランティアの養成講座を開発・継続してきた。ボランティアの講座としては，スライムマイスター，クラゲマイスター，月山マイスター，理科読マイスターなどがある。

今回は，その中で理科読マイスター養成講座について報告する。

3.　八尾 隆太，久能 大河，小町 奏翔　　【科学工作の発表】

くるくる飛行機の工作では，身近な材料を使って飛ぶ仕組みを考えながら，工夫して作品を作ります。

また，体の消化や吸収の仕組みを学ぶために，簡単な実験を行います。実験を通して，食べ物が体の中でどのように変化し，栄養として取り入れられているのかを楽しく理解します。

4. 熊谷 宜久　　【ダヴィンチマスターズへの参画とボランティア精神との関わり】

非認知能力向上のための体験教育事業である「ダヴィンチマスターズ」に講師として参画し，小学生の子供たちに向けて科学ワークショップを実施しましたので，その経過を報告します。

私が本事業に参加した契機は，約一年前に主催者側から登壇の伺いがあったことでした。子供たちが自発的に課題を発見し，探求する力を育むという理念に深く共感し，私自身がこれまでの経験で培ってきた科学の知識や，ノウハウ等を広く社会へ還元したいという思いから，登壇を決めました。

利益を目的とせず，次世代の学びの場を創出する取り組みは，私たちが日頃から大切にしているボランティア精神の根幹に通じるものと考えています。実際の活動を通して，子供たちの豊かな好奇心に直接触れるとともに，私自身も教育支援の難しさや，教える喜び等を学ぶ貴重な機会となりました。

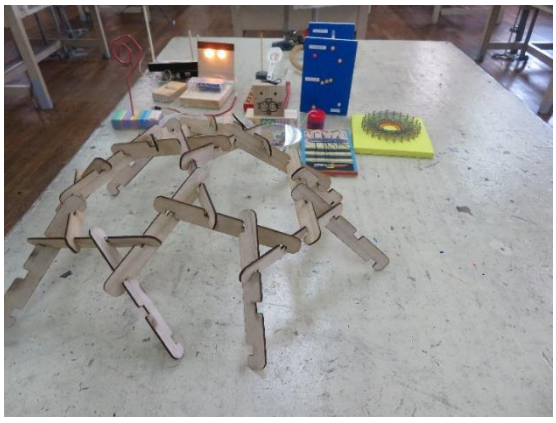
本報告では，参画に至るまでの具体的な経緯や試行，ボランティア活動を通じて得た知見等についてまとめます。

5. 松村 浩一　　【科学工作ネタ 2026】

科ボ活定番科学工作紹介ポスター，2026 年度版。科学の祭典全国大会や地方大会，地元の科学館や児童館での科学教室で実践した科学工作を紹介します。

現在，中学校の部活動が地域移行として廃止されています。中学校の部活動がなくなったまま，科学系のクラブができないままの地域も多いと聞きます。科学教育ボランティアに関心のあるあなたの出番です。ネタを紹介します。

私は今，山口県防府市で華陽サイエンス・クラブを立ち上げ，数校の中学生を対象にモノづくりを主体としたクラブ運営をしています。そこでの活動で制作したものも紹介します。



6. 佐藤 豊, 山口 哲也, 加藤 唯花, 荻窪 ゆきの, 鈴木 花葵, 田之上 那奈
【名古屋経済大学市邨高校発出張理科講座運営】

名古屋経済大学市邨高校内で, 生徒に理科講座運営スタッフの公募を行い, 学校の授業後に応募のあった生徒でチーム編成した。また, 内容の習得, 理科講座運営の方法を学んだ後, 名古屋地域を中心のイベントにて理科講座を行った。理科講座には, 市邨オリジナルの理科工作を準備した。



7. 高野 裕恵 【支援学校での理科実験ショー】

昨年より, 知的障害をもつこどもたち対象に理科実験ショーをボランティアで実施。色々な制約をふまえて, 子どもたちが喜ぶ実験や体験をさせている。その内容の紹介。



8. 太田 好信, 藤田 龍 【指紋採取 －ワークショップにおける広報導線の設計－】

「世界一行きたい科学広場 in 湘南 2026」にて, 東海大学サイエンスコミュニケーターが実施した体験型実験ショー「Let's 指紋採取！」を行いました。来場者自身の指紋を, シアノアクリレート法と蛍光粉による粉末法という身近な材料だけで可視化する約 50 分のサイエンスショーを立案・実施しました。



採取した指紋をセロハンテープで台紙に転写し, 団体ロゴと SNS 用 QR コードを添えて持ち帰ってもらうことで, 広報とつなげる仕組みも導入しました。来場者アンケートでも「体験が楽しかった」「大学生との触れ合いが良い経験になった」との声が寄せられました。

本発表では, 実験内容, 実施手順, 広報導線の設計等の発表をします。

9. 二階堂 恵理，浦本 康衣　　【小学校理科 使えば実感できる！ 教材の紹介に Vol.3】



理科実験おたすけ隊は，小学校の理科の実験をサポートする理科支援員の有志団体です。近年，小学校では高学年で教科担任制・理科専科を採用する学校が増えています。理科を教えているからと言って必ずしも理科を専門にされているとは限りません。また教科書通りの流れを希望されても，実は教科書の実験は少人数であればともかく，うまくできなかったり，準備に時間がかかったり・・・。

そこで，理科実験おたすけ隊は日々，子どもたちに実感・理解してもらえるような教材の工夫を重ねています。もちろん，身近で安価なものを使用したものです。これらをご紹介し，情報交換することでさらに使いやすいものになると思いますので，ぜひ，手に取って，小学生になったつもりで体験してみてください。

10. 伊藤 広司，井口 和明　　【「香り」の科学と自然との対話】

はじめまして「ライフサイエンス教育研究会」と申します。私達は，児童生徒や市民に向けて，自然科学の啓発活動をしているサイエンスコミュニケーターや科学館内ボランティアの仲間が集うチームです。

自然科学，特に化学，生物，薬学を正しく伝え，自然の中で暮らす人間，社会，生活との関係ついて，理解を深めてもらえるよう対話や共創活動を推進しています。おもに静岡・愛知を中心に実践をしています。

現在は，「香り」について，展示や体験，ワークショップを工夫しながら活動をしています。自然の中の香りを知り，科学の成果として作り出された合成香料についても理解を深め，自然と生活の関わりについて考える機会を提供しています。



会場では，私たちのこれまでの活動の様子を紹介すると共に，参加者の皆様にも，実際に「香り」の体験活動を通じて，香りの深い世界について，改めて認識，理解を広げる機会となればと思います。

学生セッション

『学生団体による科ボ活の発展』

学生セッションは，学生による科学ボランティアの活動の発信・紹介と，科学ボランティア活動を盛り上げていくための多種多様な団体の意見交換の機会を目的とした分科会です。

本年度は，自主イベントの実施や科学の鉄人への参加，普段の活動について，3 つの学生団体に語っていただきます。学生団体ならではの試行錯誤やノウハウを同じ学生の立場の方々へ伝えていただくとともに，社会人の方々の意見を交えながら学生団体における科学ボランティア活動について深めていければと考えております。

■発表時間と発表者

1. 11:00～11:30　井上咲笑，中野伊織（東海大学サイエンスコミュニケーター）

2. 11:30～12:00 服部　花菜(鳥乃　あらた)，日置　優菜(笛野　澪音)，小島　久実(大髭　まわり)
（henka. ～変態的に科学する～）

3. 12:00～12:30 学生団体サイエンスワークショップ

■司　会:市村　雄一郎（東大 CAST）

■発表概要

1.　井上咲笑，中野伊織　　【7 年ぶりの挑戦！「世界一行きたい科学広場 in 湘南 2026」について】

本発表では，7 年ぶりに開催した「世界一行きたい科学広場」について，開催に至った経緯や運営面での工夫，実施を通して得られた反省点について発表します。本企画は，子どもたちに科学の楽しさを伝えるとともに，科学を身近に感じ，自ら学び，考えるきっかけをつくることを目的として開催しました。7 年ぶりの開催であったため，過去の開催経験をそのまま引き継ぐことが難しく，企画内容の検討から当日の運営まで，メンバーが主体となって準備を進めました。運営面では，メンバー間での役割分担や情報共有を行い，出展者や関係者との連絡を密にすることで，円滑な運営を目指しました。一方で，準備段階での情報共有や役割調整，当日の進行などに課題も見られました。本発表では，これらの工夫や反省点を整理し，今後の科学イベントの企画・運営に活かすための課題と展望について考察します。



2. 服部 花菜(鳥乃 あらた), 日置 優菜(笛野 澪音), 小島 久実(大髭 まわり)

【科学がつなぐ人と人－好奇心の連鎖を目指して－】





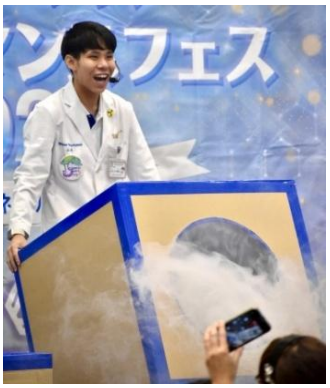
henka.は「変態的に科学する」をモットーに, 科学を全力で楽しむためのお手伝いをする学生団体です。特定の大学に属さず, 全国各地の大学生・高校生によって構成されています。2024 年 8 月の設立以来, 愛知県を中心にサイエンスカフェやワークショップ, サイエンスショーなどを開催するほか, 毎週のブログ更新や科学好きが集うコミュニティの運営など, 幅広い活動を展開してきました。

今年 9 月には「第 1 回大阪サイエンスマルシェ in ミネラルマルシェ」を主催するなど, 活動の幅をさらに広げています。本発表では, これまでの活動事例の紹介に加え, 設立間もない団体ならではの運営上の課題や, 決まった活動の型がない中での試行錯誤, そして henka.が目指す未来についてお話しします。

3. 学生団体 サイエンスワークショップ

【どきどき・わくわくをデザインする～世界一のサイエンスショーを創る学生団体を目指して～】





学生団体サイエンスワークショップは,「豊橋から世界に誇る科学者を！」を理念に, 全国各地でサイエンスショーやワークショップなどを企画・実施している学生団体です。私たちは, 科学を一方的に「教える」のではなく, 子供たち自身が「すごい！」「なぜ？」「もっと知りたい！」と感じられる体験を大切にしています。そのために, ショーの内容や演出をスタッフ全員で考え, 既製品にはない装置をゼロから製作するなど,「わくわく・どきどき」を生み出すための工夫を重ねています。

本発表では, 実際のサイエンスショーや装置製作の事例を紹介しながら, 学生だからこそできる「自分たちで創る」サイエンスショーへのこだわりをお伝えします。

一般参加者による口頭発表

■発表時間と発表者

1. 13:30～13:55　滝川　洋二（NPO 法人ガリレオ工房）
2. 13:56～14:08　白數　哲久（NPO 法人ガリレオ工房，昭和女子大学）
3. 14:09～14:21　竹中　康（Science Glass（サイエンスグラス））
4. 14:22～14:47　米谷　彰（楽しくなければ理科ではない 代表）
5. 14:48～15:00　山田 さえ，森重 琴乃（岡山理科大学科学ボランティアセンター学生スタッフ会）

■司　会:滝澤　昇（岡山理科大学）

■発表概要

1. 滝川　洋二　　【サイエンスショーでどう仕掛けるか:驚きを『納得』に変え，我が事にするには観客が「見ているだけの人」から「当事者」に変わる瞬間はどう作る？】

東海大 Sc と東大 CAST の大学生と議論しながらシナリオ「地球環境を守る！～空気砲・発電の工夫に挑戦」を作り上げ，それを「世界一行きたい科学広場 in 湘南 2026」8 月，「青少年のための科学の祭典東京大会 in 小金井」9 月，「世界一行きたい科学広場 in 浦安」11 月の舞台で実践しながら磨いてきた，科学の本当の面白さを伝えるショーの作り方への挑戦を紹介します！
「科学的な中身を伝える」中で驚きを「納得」に変える工夫の仕方を，「没入」と「一体感」を感じる観客に育つような演出の仕方をサイエンスショー形式のステージで楽しんでいただければと思います。



＊写真は，サイエンスコミュニケーターが「世界一行きたい科学広場 in 湘南 2026」を開催しました ｜ ToCo チャレニュース 東海大学 - Tokai University https://www.u-tokai.ac.jp/news-challenge/1372141/ から

2. 白數　哲久　　【ガリレオ工房が目指す第３世代実験教室】

ガリレオ工房はこれまで数多くの実験教室を行ってきました。そこで，私が 30 年辿った３つの世代を紹介します。

第１世代では講師が技を磨いていきました。見せ方，話し方，展開，手元実験の開発などです。しかし，他の活動団体の実験教室のつくり方を見て刺激を受けて，第 2 世代に進みました。ここでは，参加者の意欲を高めることを重視し策を講じてきました。

現在，第３世代に移行しています。ここででは，オンライン実験教室も含めて，スタッフみんなで教室を作り上げる取り組みに着手しています。スタッフの若返りを促進させる方法としても，みなさんの参考になればと思います。



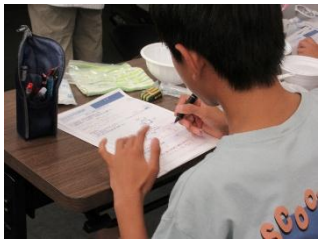


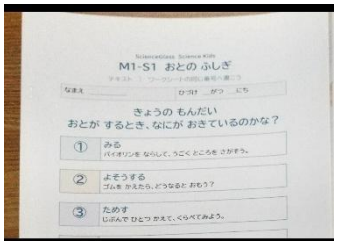
3. 竹中　康　　【科学の楽しさを地域の子どもたちに届ける取り組みの発展
―科学体験は，その後どこへつながるのか―】

地域で科学教室を続ける中で，子どもたちの科学体験が，その場の楽しさから，その後の問いや試行，家庭での会話へどのようにつながるのかに関心を持つようになった。

本発表では，Science Glass の実践をもとに，問いが生まれる授業づくりと，科学体験が日常へ広がる可能性について報告する。







4. 米谷　彰　　【サイエンスショーの醍醐味】

大阪・和歌山・京都の科学の祭典ステージに長年参加してきましたが，年々サイエンスショーの演者が減っている印象です。そこで今回は長年サイエンスショーに取組んでいる私の経験談（醍醐味）を紹介し，科ボ研の皆さんにも是非サイエンスショーに挑戦して頂ければと願っております。何がハードルでどう克服するのか等を井戸端会議的に討論したいと考えております。的外れな論争？になるかもしれませんが是非ご参加ください。







5. 山田 さえ，森重 琴乃　【大学生による科学ボランティア活動の実践と展望】

私たち大学生が今年度取り組んできた岡山県内外，国外での科学ボランティア活動の報告や，岡山理科大学科学ボランティアセンターの紹介，今年度の取り組みなどについて発表します。また，科学ボランティア活動が大学生にとってどんな影響を与えるかなどについても発表を行います。







(C)YAKATA chiaki 2001

Memo



(C)YAKATA chiaki 2001

招待講演

科学教育活動を実施・継続していく中では，さまざまな課題が出てきます。
このセッションでは，大阪市立科学館ボランティア SCIENCE de DOYA（サイエンスでドヤ）の活動の紹介を通し，参加者の皆さんとともに未来への道を考える場とします。

■発表時間

1. 15:15～15:45 サイエンスショー ＊一般公開

＊15:45～15:55 休憩《一般来場者退室》

2. 15:55～16:30 活動紹介，ディスカッション

■発表者：吉岡 亜紀子，林 ゆりえ，松田 隼（大阪市立科学館ボランティア SCIENCE de DOYA）

■司 会：小幡 哲士（科学の鉄人 NEXT 実行委員会 共同代表，NHK for School 理科ディレクター）

■発表概要

・吉岡 亜紀子，林 ゆりえ，松田 隼　　【観客が『どや顔』できるサイエンスショーを目指して】

大阪市立科学館ボランティア SCIENCE de DOYA（サイエンスでドヤ）は，大阪市立科学館でサイエンスショーを担当するボランティア有志です。科学館を中心に，時には海外や万博会場にも飛び出し，ショーやワークショップを提供しています。今年 3 月に開催された「科学の鉄人 NEXT 2026」では，「パワフル酵素の大実験！」を実演し，優勝しました！

大阪市立科学館は「本物・実物・生の現象」による体験を大切にしています。私たちボランティアも，観客が，本物・実物・生の現象を自分で観察し，体験し，そして，自分で思考を巡らせ，疑問を持ち，仮説を立て，検証する，それを会場全体で楽しむことを大切にしてきました。チーム名「サイエンスでドヤ」は，実演する側ではなく，観客の皆さんがドヤ顔したくなる体験を届けたいという思いで名付けました。「なんで？」「こうしたらどうなる？」「そうか！わかった！」と，何度でもドヤ顔できるショーを目指しています。

今回の発表では，まず「パワフル酵素の大実験！」をご覧いただきます。このショーのねらいは，酵素という身近でありながら目に見えない存在を，実は日常的に体験できる現象として提示し，科学を自分の生活と結びつけ，実生活の中のリアルなできごととして理解してもらうことです。酵素のような，手元カメラなしでは現象を全員で観察することも難しい題材で，果たして観客は科学的思考を楽しみ，ドヤ顔できるのでしょうか。皆さんとの意見交換を楽しみにしています。



フリーボード

フリーボードは参加者がだれでも，事前の登録なしで貼ることのできるボードです。
「私の科ボ活」で紹介するほどでもないが，ちょっと私の活動を紹介してみたい，ちょいネタを紹介したいという方，自分自身やグループの活動紹介，小ネタの紹介，連絡・呼びかけなどに利用できます。一人最大 A3 サイズまでです。

紹介できるのは，次の項目を満たしているものです。

1. 掲示物のサイズは一人 A3 サイズ以内

2. 名前を必ず掲示物に明記

3. 参加者が自分で貼って自分で回収
＊11 月 29 日(日)15 時以降に掲示してあるものは，実行委員会で回収します。
実行委員会で回収した掲示物の返却は行いませんので，予めご了承ください。

4. 科学教育ボランティアに関わるもの

上記項目を満たせていれば，当日持ってきていただいて，フリーボードコーナーにマグネットで自由に貼ることができます。申し込みは不要です。配布資料がある場合は，フリーボード前の長机に置くことができます。

当日は，机上にマジックペンと紙を用意しております。スペースがある場合は，その場で掲示物を作成いただくことも可能です。どうぞご活用ください。
ただし，上記項目を満たしていない，あるいはふさわしくないと実行委員会が判断した場合には，予告なく外させていただく場合がありますのでご了承ください。



(C)YAKATA chiaki 2001

主 催

全国科学教育ボランティア研究大会実行委員会

名誉実行委員長:山田 善春（ONSEN）
実行委員長:滝澤 昇（岡山理科大学）
実行委員:朝日 秀仁，市村 雄一郎，岩間 世界，岩山 勉，宇田 小百合，
太田 好信，岡田 工，小幡 哲士，川上 航平，川﨑 萩平，久米 宗男，
月僧 秀弥，坂部 結乃，進藤 明彦，高原 周一，高原 稜生，檀上 慎二，
東郷 伸也，登美 豪優，仲矢 史雄，丹羽 駿輔，沼 舜貴，橋本 芽生，
橋本 賴仁，林 昂希，藤田 龍，松尾 知，八尾 隆太，林 韵華，渡部 熙
（50 音順）

共 催

京都市教育委員会

協 賛

ナリカ

＊この大会で発表された実験・観察や実践，あるいはこの冊子に掲載されている内容を，後日実験教室等で使われたり資料として掲載されたりする場合には，必ず出典を明記され，執筆者（発表者）にご連絡下さい。

＊本パンフレット中のイラスト・ロゴデザインの著作権は作者が保有しています。刊行物，Web，CD-ROM 等に転載する場合は，大会実行委員会事務局 sevrchp@gmail.com にご連絡ください。